



平成30年10月15日

各位

会社名 株式会社鉄人化計画
代表者名 代表取締役社長 岡崎 太輔
(証券コード 2404 東証第二部)
問合せ先 経営企画部 黒島 航
TEL 03-3793-5117

(訂正)「繰延税金資産の取崩し、営業外費用の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」
の一部訂正について

当社は、平成30年4月16日に発表をいたしました、「繰延税金資産の取崩し、営業外費用の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」の記載内容に一部誤りがありましたので下記の通りお知らせいたします。株主、投資家の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

記

I. 訂正の理由

「繰延税金資産の取崩し、営業外費用の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」の記載内容のうち、「3. 業績予想の修正」に関する記載について、誤りがあることが判明したため訂正を行うものです。誤りの内容につきましては、連結業績予想の「今回修正予想(B)」の数値が連結子会社1社の数値を含まない個別業績予想の数値を取り違えて記載したこと、また、個別業績予想の「平成30年8月期通期個別業績予想数値の修正」の記載もれとなります。

II. 訂正内容 (訂正箇所には下線を付しております。)

3. 業績予想の修正

【訂正前】

平成30年8月期通期連結業績予想数値の修正 (平成29年9月1日～平成30年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	7,710	176	120	57	9.18
今回修正予想 (B)	<u>7,100</u>	<u>60</u>	<u>△55</u>	△350	△56.36
増減額 (B - A)	<u>△610</u>	<u>△116</u>	<u>△175</u>	△407	-
増減率 (%)	<u>△7.9%</u>	<u>△65.9%</u>	-	-	-
(参考) 前期連結実績 (平成29年8月期)	7,830	△221	△167	△1,584	△255.07

(修正の理由)

当期の経営方針は、(1)カラオケルーム運営事業への注力、(2)新規事業への厳選投資、(3)コーポレートガバナンスの強化であります。今般の長期資金の安定確保により財務体質が改善し、積極的に投資を行う経営環境が整いました。店舗運営力の向上とともに店舗のリニューアルやスクラップアンドビルドを進め、さらに当社独自の鉄人システムへ積極的な投資を行うなど、新しい価値提供を含めた店舗の集客力を高めることで業績の回復に努めてまいります。

なお、以下の理由により平成30年8月期の通期の連結業績予想を修正するものであります。

- ・財務体質が改善したことにより積極的な経営施策をとる一環として期初に計画した不採算店舗5店舗の退店に加え数店舗を退店することを検討しており、計画外の退店による売上高の減少を見込みます。
- ・店舗スタッフが十分に確保出来なかった店舗について売上高の減少を見込みます。現状は採用媒体の多様化、本部主導の採用強化により人員不足の状況は順調に改善しております。
- ・老朽化・陳腐化した店舗の営業力を強化するべく店舗のリニューアルを計画に基づき進めておりますが、12月商戦に間に合わなかった一部店舗について売上高の減少となりました。
- ・お客様の認知が高く当社の強みであるコンテンツコラボレーション(アニメ・ゲーム等)は当社の差別化要因であります。大型コンテンツの獲得不足による売上高の減少を見込みます。現状はコンテンツホルダーとの信頼関係を一層強化するなど諸施策の実施に取り組んでおります。

これらにより、売上高の通期見通しは当初業績予想の7,710百万円から7,100百万円の見通しとなり610百万円減少する見込みであり、併せて売上総利益も予想を下回る結果となりました。

販売費及び一般管理費は前期783百万円から当期547百万円へ209百万円減少しました。主な減少は人件費106百万円減少、業務委託料40百万円減少及び交際費9百万円減少などとなります。

営業利益につきましては、経費削減は計画通りに推移したものの、売上高の減少とそれに伴う売上総利益の減少の影響により、当初業績予想の176百万円から60百万円の見通しとなり116百万円減少する見込みです。

経常利益につきましては、上述の要因に加えて営業外費用として72百万円の支払手数料を計上することなどにより、当初業績予想の120百万円から△55百万円の見通しとなり175百万円減少する見込みです。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上述の要因に加え198百万円の繰延税金資産を取崩すことなどにより、当初業績予想の57百万円から△350百万円の見通しとなり407百万円減少する見込みです。

【訂正後】

平成30年8月期通期連結業績予想数値の修正(平成29年9月1日～平成30年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,710	176	120	57	9.18
今回修正予想(B)	<u>7,200</u>	<u>42</u>	<u>△63</u>	△350	△56.36
増減額(B-A)	<u>△510</u>	<u>△134</u>	<u>△183</u>	△407	-
増減率(%)	<u>△6.6%</u>	<u>△76.1%</u>	-	-	-
(参考)前期連結実績(平成29年8月期)	7,830	△221	△167	△1,584	△255.07

(修正の理由)

当期の経営方針は、(1)カラオケルーム運営事業への注力、(2)新規事業への厳選投資、(3)コーポレートガバナンスの強化であります。今般の長期資金の安定確保により財務体質が改善し、積極的に投資を行う経営環境が整いました。店舗運営力の向上とともに店舗のリニューアルやスクラップアンドビルドを進め、さらに当社独自の鉄人システムへ積極的な投資を行うなど、新しい価値提供を含めた店舗の集客力を高めることで業績の回復に努めてまいります。

なお、以下の理由により平成30年8月期の通期の連結業績予想を修正するものであります。

- ・財務体質が改善したことにより積極的な経営施策をとる一環として期初に計画した不採算店舗5店舗の退店に加え数店舗を退店することを検討しており、計画外の退店による売上高の減少を見込みます。
- ・店舗スタッフが十分に確保出来なかった店舗について売上高の減少を見込みます。現状は採用媒体の多様化、本部主導の採用強化により人員不足の状況は順調に改善しております。
- ・老朽化・陳腐化した店舗の営業力を強化するべく店舗のリニューアルを計画に基づき進めておりますが、12月商戦に間に合わなかった一部店舗について売上高の減少となりました。
- ・お客様の認知が高く当社の強みであるコンテンツコラボレーション(アニメ・ゲーム等)は当社の差別化要因であります。大型コンテンツの獲得不足による売上高の減少を見込みます。現状はコンテンツホルダーとの信頼関係を一層強化するなど諸施策の実施に取り組んでおります。

これらにより、売上高の通期見通しは当初業績予想の7,710百万円から7,200百万円の見通しとなり510百万円減少する見込みであり、併せて売上総利益も予想を下回る結果となりました。

販売費及び一般管理費は前期783百万円から当期547百万円へ236百万円減少しました。主な減少は人件費106百万円減少、業務委託料40百万円減少及び交際費9百万円減少などとなります。

営業利益につきましては、経費削減は計画通りに推移したものの、売上高の減少とそれに伴う売上総利益の減少の影響により、当初業績予想の176百万円から42百万円の見通しとなり134百万円減少する見込みです。

経常利益につきましては、上述の要因に加えて営業外費用として72百万円の支払手数料を計上することなどにより、当初業績予想の120百万円から△63百万円の見通しとなり183百万円減少する見込みです。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上述の要因に加え198百万円の繰延税金資産を取崩すことなどにより、当初業績予想の57百万円から△350百万円の見通しとなり407百万円減少する見込みです。

【訂正前】

記載なし。

【訂正後】

平成30年8月期通期個別業績予想数値の修正（平成29年9月1日～平成30年8月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	7,615	136	73	11.75
今回修正予想（B）	7,100	△55	△350	△56.36
増減額（B－A）	△515	△191	△423	－
増減率（％）	△6.8%	－	－	－
（参考）前期個別実績 （平成29年8月期）	7,700	△198	△1,581	△254.66

（修正の理由）

当期の経営方針は、（1）カラオケルーム運営事業への注力、（2）新規事業への厳選投資、（3）コーポレートガバナンスの強化であります。今般の長期資金の安定確保により財務体質が改善し、積極的に投資を行う経営環境が整いました。店舗運営力の向上とともに店舗のリニューアルやスクラップアンドビルドを進め、さらに当社独自の鉄人システムへ積極的な投資を行うなど、新しい価値提供を含めた店舗の集客力を高めることで業績の回復に努めてまいります。

なお、以下の理由により平成30年8月期の通期の個別業績予想を修正するものであります。

・財務体質が改善したことにより積極的な経営施策をとる一環として期初に計画した不採算店舗5店舗の退店に加え数店舗を退店することを検討しており、計画外の退店による売上高の減少を見込みます。

・店舗スタッフが十分に確保出来なかった店舗について売上高の減少を見込みます。現状は採用媒体の多様化、本部主導の採用強化により人員不足の状況は順調に改善しております。

・老朽化・陳腐化した店舗の営業力を強化するべく店舗のリニューアルを計画に基づき進めておりますが、12月商戦に間に合わなかった一部店舗について売上高の減少となりました。

・お客様の認知が高く当社の強みであるコンテンツコラボレーション（アニメ・ゲーム等）は当社の差別化要因であります。大型コンテンツの獲得不足による売上高の減少を見込みます。現状はコンテンツホルダーとの信頼関係を一層強化するなど諸施策の実施に取り組んでおります。

これらにより、売上高の通期見通しは当初業績予想の7,615百万円から7,100百万円の見通しとなり515百万円減少する見込みであり、併せて売上総利益も予想を下回る結果となりました。

経常利益につきましては、販売費及び一般管理費の削減は進捗したものの、営業外費用として72百万円の支払手数料を計上することなどにより、当初業績予想の136百万円から△55百万円の見通しとなり191百万円減少する見込みです。

当期純利益につきましては、198百万円の繰延税金資産を取崩すことなどにより、当初業績予想の73百万円から△350百万円の見通しとなり423百万円減少する見込みです。

以上